

岐阜県瑞浪市に分布する釜戸層から産したコハクの¹⁴C年代

柄沢宏明*・森 忍**

*瑞浪市化石博物館

**名古屋大学年代測定資料研究センター

はじめに

岐阜県瑞浪市釜戸町上荻ノ島には釜戸層と呼ばれる崖錐性堆積物が分布する（糸魚川, 1974）。本層中には豊富にコハクが含まれ、コハク中からは多数の昆虫化石が見いだされている（日浦・宮武, 1974）。釜戸層の地質時代については様々な見解があり、糸魚川（1974）は地質・層序の検討によって更新世中期とし、日浦・宮武（1974）は昆虫化石の組成から判断し同じく更新世中期とした。吉野（1974）は花粉化石の研究から本層は第四紀以前の堆積物であると判断した。最近、Schlee（1974）は、本層から産するコハクの¹⁴C年代を測定し、33,000 y. B.P.としている。このように、¹⁴C年代と地質・化石から推定される地質時代は大きな違いがある。今回、釜戸層の地質時代を再検討するために、本層中に含まれるコハクを用い名古屋大学年代測定資料研究センターのタンデトロン加速器を用いて¹⁴C年代を測定したのでここに報告する。

資料の産地・産出層準

今回資料とした釜戸層産のコハクは、岐阜県瑞浪市上荻ノ島（第1図）の中央道工事現場で中央道瑞浪化石調査団によって1973年に採集されたもので、現在は露頭を観察することは出来ない。

この地の釜戸層の層序については、糸魚川（1974）により研究されており、全層厚およそ85 m、下位は細礫を含む無層理・灰緑色の砂質シルト（約20 m）からなる。その中部から上部にかけて、褐炭～褐炭質シルトの薄層・火山灰質シルト層・中礫～小礫よりなる礫層を所々に挟む。上位は巨礫～中礫を含む崖錐性の礫層よりなり、無層理から斜行層理の砂層を挟む。今回の資料としたコハクは本層最下位の砂質シルト層中より産したものである。

測定結果

2点のコハクを用いて年代測定を行った結果は以下の通りである。

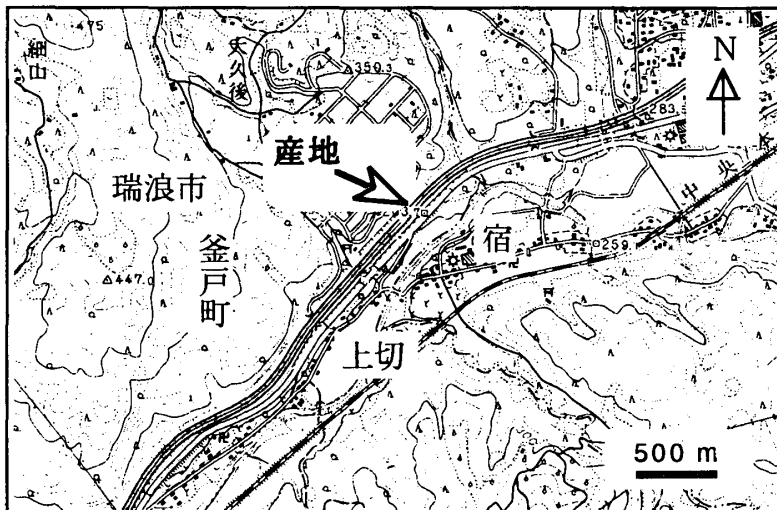
1. 測定番号 NUTA-4121
¹⁴C年代値 >45,830 y. B.P.（半減期5,568年）
2. 測定番号 NUTA-4125
¹⁴C年代値 >45,950 y. B.P.（半減期5,568年）

考察

コハクの¹⁴C測定結果は、現在のタンデトロン加速器の¹⁴C年代測定限度を超えていて、2資料とも約4.6万年よりも古い年代値を示した。Schlee (1974) による¹⁴C年代は3.3万年とされ、今回の測定結果と一致しないが、その原因について議論することは難しい。少なくとも、コハクの¹⁴C年代の今回の測定結果は、糸魚川 (1974) ・日浦・宮武 (1974) による釜戸層の堆積時期を中期更新世とする見解を間接的ながら指示するものといえる。釜戸層の正確な地質時代については、花粉および昆虫化石の詳細な研究によって明らかにされるものと期待したい。

引用文献

- 日浦 勇・宮武頼夫 (1974), 瑞浪コハクの化石節足動物について. 瑞浪市化石博物館研究報告, no. 1, 385-392.
- 糸魚川淳二 (1974), 瑞浪コハク含有層 (釜戸層) の地質. 瑞浪市化石博物館研究報告, no. 1, 393-395.
- Schlee, D. V. (1990), Das Bernstein-Kabinett. Stuttgarter Beiträge zur Naturkunde, Serie C, Heft 28, 100 p.
- 吉野道彦 (1974), 瑞浪市釜戸付近のコハク含有層 (釜戸層) の花粉化石. 瑞浪市化石博物館研究報告, no. 1, 455-456.



第1図. 産地図.
国土地理院発行2万5千分の1地形図「武並」使用